

質問4. ジェンダーについて(自分で記述する)

回答者 番号	自分で記述する(Self-describe) 記述
	記述なし

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉(その他)

回答者番号	その他記述
※	日本実験動物学会日本神経精神薬理学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本微生物生態学会日本生物工学会
※	日本神経学会
※	日本解剖学会
※	日本骨代謝学会、日本骨形態計測学会、日本骨免疫学会、日本リウマチ学会、日本整形外科学会、ASCB、ASBMR
※	日本プロテオーム学会
※	酸化ストレス学会、糖尿病学会、RNA学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本内分泌学会、日本産科婦人科学会
※	日本がん転移学会、日本数理生物学会、日本がん分子標的治療学会、Metastasis Research Society
※	日本放射線影響学会
※	日本薬学会
※	日本臨床ストレス応答学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本植物バイオテクノロジー学会、日本育種学会
※	高分子学会
※	日本土壌肥料学会
※	日本ゲノム微生物学会、日本進化学会
※	日本再生医療学会
※	日本骨代謝学会
※	日本解剖学会、日本神経化学会
※	日本微生物生態学会
※	植物バイオテクノロジー学会
※	日本骨代謝学会、日本アミノ酸学会、日本薬学会
※	日本化学会、日本DDS学会、日本薬学会
※	日本薬学会
※	日本育種学会、日本ゲノム編集学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、情報処理学会、日本生物工学会
※	日本放射線影響学会、ゲノム編集学会
※	認知症学会医学教育学会
※	日本ゲノム編集学会、日本再生医療学会、日本筋学会、日本遺伝子細胞治療学会
※	日本動物学会
※	日本ウイルス学会
※	日本生物工学会
※	日本放射線影響学会、日本基礎老化学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本解剖学会
※	日本バイオイメージング学会
※	日本植物病理学会
※	日本ミトコンドリア学会、日本薬学会、日本細胞生物学会
※	日本解剖学会Microscopy Society of America
※	日本寄生虫学会、脂質生化学会
※	日本実験動物学会
※	日本栄養・食糧学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本基礎老化学会
※	サイトメリー学会
※	日本脂質生化学会
※	日本循環器学会
※	SfN, CNS, IBNS, ISTAART, ABS AChemS, JSICR, GASND
※	日本動物学会、日本水産学会
※	日本生理学会
※	日本RNA学会
※	日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会
※	日本動物学会
※	日本神経化学会、日本生理学会、日本時間生物学会
※	日本解剖学会
※	日本機械学会、日本計算力学会
※	血液学会、実験動物学会
※	日本リハビリテーション医学会、日本神経学会、日本筋学会
※	日本RNA学会、日本進化学会、他
※	American Society for Cell Biology
※	日本人類遺伝学会
※	日本小児科学会、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本国際保健医療学会
※	臨床微生物学会 医学検査学会

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉(その他)

回答者 番号	その他記述
※	日本体力医学会
※	生物物理学会
※	ウイルス学会
※	日本骨代謝学会基礎歯科医学会
※	日本筋学会
※	アメリカ生化学分子生物学会、アメリカおよび日本骨代謝学会、日本結合組織学会学会ほか
※	日本骨代謝学会、日本炎症再生医学会
※	日本人類遺伝学会、日本卵子学会、日本受精着床学会、日本臨床分子形態学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本動物学会、日本農薬学会
※	日本栄養改善学会
※	日本生理学会
※	日本発生生物学会日本骨代謝学会
※	日本脂質生化学会
※	日本薬理学会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本糖尿病学会、日本病態栄養学会
※	日本人類遺伝学会、Society for Neuroscience
※	日本生物工学会
※	日本水産学会、水産増殖学会
※	日本血液学会、人工知能学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本ミトコンドリア学会

質問6. オンラインポスター発表について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった

2.よくなかった

3.オンラインポスター発表には参加しなかった

4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	3/4	参加が面倒。会期前日で仕事とかぶる。ポスター閲覧可能にし、コメント機能を有しては？
※	3/4	大会前日は移動日なので、参加できない人が多かったのでは。
※	3/4	年会開催地までの移動中であったため。
※	2/4	ポスターは特にオンラインに向かないと感じる。現場でのインタラクションが重要なので。逆にシンポジウムやワークショップは聞くだけでもいいという人は多いと思う。
※	1/4	オンライン参加でも、オンサイトの発表を含む発表も視聴でき、よかったです。発表会場に入室しても演者の方が不在のこともあり、視聴できない発表があったことは残念でした。
※	3/4	移動中のため、参加できませんでした。
※	2/4	聞きたかったオンラインポスター発表者が参加しなかったので意味がない。
※	3/4	オンラインポスター発表が学会の前日のため、移動と重なってしまい参加できなかった。
※	3/4	前日から移動する必要があり、オンラインポスターを見る暇がなかった。
※	2/4	ポスターは発表者がいなくても閲覧できるようにしてほしい。奇数番と偶数番とで発表時間が指定されていることが演者以外の一般参加者に十分に周知されておらず、目的のポスターをほとんど見るができなかった。
※	4	移動日のために参加できなかった。
※	3/4	当日時間が合わなかった。
※	2/4	2.ポスター閲覧時に自分の名前が相手(ポスター発表者)に開示されているのかよくわかりませんでした。
※	3/4	発表形式や発表者がどのように決まっているのかよく分からなかった。
※	3/4	どのようなシステムなのかよく分からなかった。説明を見つけられなかった。
※	3/4	今回は福岡開催ということもあり、ポスター発表が移動日と重なり、時間が合わずに上手く参加できませんでした。
※	2/4	今回参加しませんでした。コロナ禍の際にオンラインでのポスター発表が行われた記憶があり、そこで発表しました。会場内で、人がなかなか来ないのも大変ですが、オンラインの場合、その時の気持ちの落ち込み様と云ったらありませんので笑、あまり賛成しません。
※	4	学会に参加していないので回答できません
※	4	今回は参加していませんが、良い結果が出たら是非オンラインポスター発表をしたいと思っています。現地に行き参加したいのですが、現在海外(アメリカ)にいるので、旅費、現地との往復の時間などを考えますと、オンライン発表を今後も行っていただけますと非常に助かります。
※	3/4	移動日にオンラインを設定されても困る
※	3/4	zoomを用いたオンラインポスター発表は、発表者事の部屋に入るのに抵抗があった。
※	3/4	前日のオンライン開催だと、移動日に当たることも多く、しっかりと参加することが難しい。
※	3/4	余計なことをしないでください。

質問7. 指定シンポジウム(135分・8件)について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった                      2.適切でないと感じる点があった                      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	3	参加していない。
※	3	数年前に公開された成果のサマライズのような目新しさのない発表があり、その点だけ不満であった。
※	3	参加していない
※	3	英語のシンポジウムが多く、学生が敬遠することが多かった。サイエンスの共通言語は英語であることは言うまでも無いが、学会に行っても聞きたい講演を理解出来ず、それほど関心のないテーマのセッションを聞きに行くのはあまり建設的ではない。英語で何となく理解する(あるいは理解出来ない)のと、日本語で大部分を理解するのは後者の方が見識を増やすということでは意味があると思う。例えば外国人聴衆のためにスライドは英語で、しかし言語は日本語でというのがよいと思う。
※	3	午後のテーマとテーマの間が短い。会場の大きさと参加人数があってない部屋があった。
※	3	指定シンポジウムかどうかを考えてセッションに参加しなかったため、出席した指定シンポジウムは、なかった。
※	2/3	選択されているテーマ・演者がそもそも必ずしも魅力的でない
※	2/3	時間が長いと感じた。
※	3	参加していない
※	2/3	興味の重複するセッションが多くて参加できなかった。当日や会期中だけであってもいいので、オンデマンド配信をしてほしい。
※	2/3	面白いテーマがなかった
※	2/3	講演言語を英語に設定している割に、質疑の際に日本語でディスカッションする場面があり、グダグダ感を感じた。海外から外国人研究者をスピーカーとして招聘しないのであれば、果たして英語縛りで行う意味があるのかと疑問を感じた。
※	3	参加できていません
※	2/3	公募やミニシンポジウムも含めて、タイトルと中身の不一致を感じた。タイトルは面白そうだけど。。。みたいな
※	3	参加せず。
※	3	分野外の発表は英語では理解が難しいと感じた。
※	3	学会に参加していないので回答できません
※	2/3	日程に対して、セッションが多すぎる
※	2/3	指定シンポジウムと、公募シンポジウムの差がわからなかった。指定シンポジウムはもっと大きな括りで、最近トレンドを俯瞰するようなものがよいかもかもしれない。
※	3	興味のあるテーマがなかった
※	2/3	外国から大学院生や、ポストドクを連れてきていますが、大変面白い独創性に満ちたセッションもありますが、日本語です。論議に参加できないと皆 不満を持っています。CSHの会議や、欧州の会議では、すべて英語です。アジアの会議も、中国、台湾、韓国、シンガポールなどでは、英語です。私は、日本の研究を外から見ましたが、日本の研究の劣化は悲しいものがあります。せめて、公用語は英語にしたいと切に願います。近年、日本の研究レベルは分子生物に限らず、劣化しすぎです。せめて英語にして、日本分子生物学会の日本はいりません。ここ、2回 出席しましたが、日本語の講演はやめていただきたい。
※	1/3	●●先生が話されたシンポジウムで、最初の演者が英語でのトークだと知らなかったと話していたため、その辺はしっかりと情報共有をしてほしい。
※	3	参加していないので、わかりません。
※	2/3	どの分野をシンポジウムとして指定するかを決定するのは、大変難しいことだが、選定理由がよくわからなかった。大型資金を取っている分野なのか、将来性なのか、ジェンダーで女性を加えてみただけなのか、よくわからなかった。
※	3	オンラインでも参加可能にして欲しかった
※	3	時間は長いと感じた。120分以内、90分くらいでもよい。
※	2/3	広範囲の分野を扱う大きな学会であり異分野に触れるよい機会となる場であるため、日本語を増やしてほしい
※	2/3	ネタ切れなんだなあ。と思いました。
※	3	参加できなかった
※	2/3	野心的なテーマが多く意気込みは感じられるが聴きたいと思えるものが少なかった。

質問8. 公募シンポジウム(135分)・ミニシンポジウム(80分)について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった                      2.適切でないと感じる点があった                      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	午後のセッションスタートが遅すぎる。相変わらず会場数が多すぎる。会期を4日間にしてでも会場数を減らすべき。総セッション数も減らして厳選すべきでは？
※	1/3	発表と座長をしたが、ランプや時間表示がなくやりにくかった。また、パソコンを預けなければならず、要旨や演者の情報を確認するのに難儀した。
※	3	機材トラブル
※	2/3	ミニシンポジウムの座長の先生が、外れて仕方なく押し込められたといった発言をされていた。演者選定など同じ熱量をかけてコーディネートされているのだから、皆さん120 or 150分でやらせてあげてほしい。9時開始は遅い。8時で良い。夜を早くしないと、食事が充実しない。
※	2/3	シンポジウムテーマが、クロマチンやエピゲノム関連に偏っていると感じた。もっと大きな枠で課題を設け、色々な観点から多角的に議論できるような場がほしい。
※	2/3	演題数に対して時間が少し短いように感じました。特にミニシンポジウムで。
※	3	英語のシンポジウムが多く、学生が敬遠することが多かった。サイエンスの共通言語は英語であることは言うまでも無いが、学会に行っても聞きたい講演を理解出来ず、それほど関心のないテーマのセッションを聞きに行くのはあまり建設的ではない。英語で何となく理解する(あるいは理解出来ない)のと、日本語で大部分を理解するのは後者の方が見識を増やすということでは意味があると思う。例えば外国人聴衆のためにスライドは英語で、しかし言語は日本語でというのがよいと思う。
※	1/3	近い分野のものが別々のシンポジウムで開催されていた。
※	1/3	オンラインでの参加があったようですが、質問などがありませんでした。オンラインでの、発表は必要ないのではないかと思いました。特に、演者の中には、unpublishなdataをださずらいとの意見も頂きました。
※	2/3	時間的に短すぎるものもあった。
※	2/3	ミニシンポジウム80分は、シンポジウムと同程度の数の演題を詰め込んだものが多いように感じ、あまりに駆け足でこれなら不要なのではと感じた。
※	2/3	会場の広さと、聴衆の人数があていないものがあった。座長によるだろうが、講演時間が延長したり、質疑応答の盛り上がり欠けるものがあった。
※	3	午後のテーマとテーマの間の間が短い。会場の大きさと参加人数があていない部屋があった。
※	2/3	一部の会場は非常に混雑し、着席することができないほどであった。
※	2/3	公募シンポジウムは時間が長いと感じた。
※	1/3	しかし、満席、立ち見のものが多く、2日目からはホテルに帰ってオンライン参加とした。ハイブリッドにしたのはよかった。継続してほしい。
※	1/3	システム生物学大反省会が素晴らしかった。
※	2/3	公募でポスターピックアップされたのですがポスターセッション(偶数)とシンポジウムが連続しており、とてもやりにくかった。
※	2/3	興味の重複するセッションが多くて参加できなかった。当日や会期中だけであってもいいので、オンデマンド配信をしてほしい。
※	2/3	ミニシンポは演者数に対して短すぎると感じた。逆に公募シンポは長いと思うので、90-100分程度に統一したほうが良いと感じた。
※	3	11/27開催のアカデミア創業に参加し、内容は非常に面白く有意義であったが、人気に比べて会場が狭く、事前に参加者から参加予定セッションなどの情報を得て、それに合わせたサイズの会場に振り替えるなどの対応が必要かもしれない。また、人気のあるセッション枠についてはもっと長い時間枠が必要であると感じた。
※	2/3	全体的に時間を守らないスピーカー・オーガナイザーが多く、聴講・発表していき詰まりを感じた。発表時間を超過しすぎて質疑時間がない場合が多々あり、フラストレーションを感じた。テーマ設定に関しても、設定されたテーマに対して全く関係のない、あるいは関係がわからない演題が選ばれており、シンポジウムの方向がわからないものがあった。発表の時間配分もシンポジウム・オーガナイザーによって決められており、演者によって異なったため、不公平感を感じた。
※	1/3	発表者が国内研究者ばかりで、かつ、当該専門分野の研究者間の議論に終始している例があった。ある専門分野に他分野の研究者がいかにか積極的に参加できるかが今後の課題だと思う。
※	1/3	同じ時間に開催されるセッションがちょっと多すぎるかもしれない。
※	2/3	時間内に発表を終えた発表者は少ないように感じた。質疑応答の時間も超過しているケースが多く感じた。時間はもう少し座長がコントロールすべきと思う。
※	2/3	演者がただ馴れ合いや忖度で選ばれているように感じる。国際学会の口頭発表と比較しても、レベルが低く、口頭に相応しくない発表が多くあった。一方で、とても素晴らしい研究成果をポスター発表をしていた人が、口頭に採択されなかったと話しており、とても残念かつ疑問に思った。
※	3	ミニシンポは当初、90分枠で企画されていたものの、10分短縮されたため、90分枠に合わせて応募されたセッションでは時間が非常にタイトになってしまい、かなり時間が押していたセッションもあった。
※	2/3	会場が狭く入りきれないことが何度かあった点。
※	1/3	シンポジウムを構成する演題数が多く感じた。もう少し一人の演者の研究を十分な時間をかけて発表してもらいたかった。一般演題の集まりのように感じられた。
※	2/3	個人的な興味の問題かもしれないが全てのミニシンポジウムにあまり魅力を感じなかった。
※	3	全体のタイトルと内容が合っていない場合があった。個別の内容はどれも素晴らしかったのですが。
※	3	日本語での講演がさらに多いと良いと思います。異分野の発表内容だと英語では理解が困難であるのがその理由です。あるいは、同時日本語字幕映写ができると良いのでしょうか。
※	2/3	公募枠のシンポジストの数をもっと増やすことができたらよかったと思った。
※	2/3	ミニシンポジウムでは、各トークが短くdiscussionも十分に時間を取れていなかった。
※	2/3	日程に対して、セッションが多すぎる
※	1/3	日本筋学会との共催企画も多くの人が集まっていて分子生物学会の懐の深さを感じました。

質問8. 公募シンポジウム(135分)・ミニシンポジウム(80分)について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった                      2.適切でないと感じる点があった                      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	セッション数が多く、特に午後のミニシンポジウムと次のシンポジウムの間に15分しかあいておらず、聴衆の入れ替えやPC接続テスト等が慌ただしかった。英語のセッションはもっと多い方がよい。日本語セッションでもスライドは英語なので、海外招待講演者も日本語のシンポジウムに参加し内容はほぼ理解できたと言っていたが。
※	1/3	135分は少し長いかもしれません。80分はちょうどよいと思いました。
※	2/3	セッションの数を減らして(整理して)、もう少し、海外からのシンポジストの数を増やしてほしいと感じた。
※	3	公募シンポジウムとミニシンポジウムの区分が曖昧なように思いました。
※	2/3	全て、英語を公用語にしてください。海外の著名な研究者が、発表を選択すればよいと思います。日本人の発表が多すぎです。あと、独創性がない、AIを利用した講演は、人間の脳を劣化させます。危険です。
※	3	参加していないので、わかりません。
※	2/3	公募シンポジウムとミニシンポジウムの数が多すぎて、参加が難しかった。重複するようなテーマもあることから、公募すべてのシンポジウムを採択するのはどうかと思ったが、せっかく企画して応募されたシンポジウム申請を断るのもあまり良いわけではなく、その兼ね合いが難しいと感じた。また夜の19時以降のセミナーやシンポジウムは参加者が減少するため、この時間帯に設定しない方がよいと感じた。
※	3	オンラインでも参加可能にして欲しかった
※	3	時間は長いと感じた。120分以内、90分くらいでもよい。数が多すぎるように感じた。
※	3	テーマに偏りがあるように感じた。
※	2/3	広範囲の分野を扱う大きな学会であり異分野に触れるよい機会となる場であるため、日本語を増やしてほしい。講演者が多すぎるセッションが多かったように思える。
※	2/3	余計なことをしないでください。制限をつける理由が運営側の都合としか理解できない。
※	1/3	公募シンポジウムも、もう少し短くても良かったかも知れない。
※	2/3	セッションのテーマが細分化されるすぎているように思いました。もう少し大まかなカテゴリー分けされてかつ分野横断型のセッションがあるといいかと思いました。ミニシンポジウムとシンポジウムの時間が短過ぎて、時間が押して移動なども大変だった。
※	2/3	内容的に重複するものが多く、また興味あるものをピックアップして聴こうとすると会場間を細かく移動しなければならず大変だった。もっとテーマを洗練して数を絞った方がよいように思います。

質問9. 公募シンポジウムの企画応募条件に「指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしない」が入っていたことについて〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.賛同し支持する      2.理解はするが適切か疑問が残る      3.適切でないと思う      4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	3/4	良い研究内容であればジェンダーバイアスは気にしなくていいはず。ジェンダー指定そのものが性差別では？
※	1/4	賛同はいたしますが、特定の研究領域の女性研究者を探すのに苦労はしました。
※	3/4	特定のジェンダーと縛りをつけることで、逆に差別を助長する場面がある。お願いして演者に入ってもらうなどの不合理が生まれる。
※	2/4	その分野の研究者の男女比から乖離している場合があることも注意が必要だと思います。
※	2/4	指定演者の選定が困難であった
※	4	2に近いが、そもそもジェンダーは最初から気にすべきでは無いと思う。
※	2/4	少なくとも、その割合が研究者人口の男女比を反映していればよいと思う。
※	1/4	企画を行ったが、応募のさいにひつさいにひつ女性に年齢が聞きづらい。
※	4	気づかなかった
※	2/4	70%以上と制限することの意味がわからない。無理にジェンダーを交えるよりも本当に優秀な演者の講演を聴きたい
※	2/4	社会での議論がおかしな方向に暴走しているように感じており、しょうがない措置かなと思いました。
※	2/4	内容最優先にすべきで、結果としてジェンダーが偏ることがあっても問題ないと思う。
※	2/3/4	面白い研究に男女はなく、当該テーマで最近おもしろい成果を挙げている研究者を選ぶべき。
※	2/4	現時点で女性研究者が少ないのは事実である。そこから無理やり女性の演者を増やすとなると、女性の取り合いになるし、質の安定も保証できない。大学教員について女性の割合を上げる政策も同様であり、急速にその割合を上げることについては賛同しない。
※	3/4	能力や専門性に基づく選考よりも、ジェンダーを重視することで、より適任な候補者が除外される可能性があります。これは公平性の観点から問題であり、また内容の質にも影響を与えます。また、選ばれた側の人々に対しても、純粋に能力や実績ではなく「数合わせ」として選ばれたのではないかという疑念を抱かせる可能性があります。
※	4	特定のジェンダーとしないということには全面的に賛同するが、ジェンダーバランスを平均化したいのであれば、割合を決めると同時に、学会参加の障壁を取り除くことにも積極的に動くよう努力した方がよいと思いました。例えば小児帯同者に託児所を準備していると思うが、海外の学会に見られる様なより大きな小学生等に対して、アクティビティや家族帯同に対するクーポンなどを用意することで、学会参加が本人以外の家族への負担・圧迫にならないよう配慮する施策が大事だと思います。
※	2/4	女性研究者を増やすことに貢献すると思います。が、多数の研究者がいる研究課題領域はよいのですが、演者をするにふさわしい人を選ぶ際に難しくなる場合もあると思います。
※	2/4	無理に偏りを防ぐのはどうかと思う。研究体制が女性に不利が多いと思われる中、発表者のみに制限をかけても意味がないのではないか。
※	4	ちょっと意味がわからない
※	2/4	前述したような問題が、発表者の性別の割合を補正した事によって生じたのであれば、アフーマティブ・アクションそのものが問題だと感じる。学会員の性別割合が50:50ならともかく、そうでないのに50:50にしようとするのはむしろバイアスを掛けすぎていると感じる。テーマによっては女性比率が高い分野もあれば、低い分野もあるので、それを一様に補正してしまうと割り食う人が生まれるため、むしろ不公平感が増す。オーケストラのオーディションのように、氏名・所属をブラインドにして選考したほうが公平ではなかるか。
※	1/4	実現はしばしば困難である。違う年度でも同じ発表者になってしまうことがある。
※	1/4	以前は同じスピーカーばかり発表している印象があったが、新しい女性研究者スピーカーの数も少しずつ増えてきているように思う。
※	2/4	ジェンダーを意識しすぎると逆に不自由になるのではないか。女性だからという理由で発表の機会を奪われたと感じることは今までなかった。性別に依らず純粋に内容で判断するべきでは。確かに女性はライフプランの関係で研究を中断せざるを得ない時期があったりするが、そのことは社会全体の問題として対処するべきであって、特定の学会の演者の選別に反映させることではないように思う。
※	3/4	ジェンダーで演者を選ぶべきではないと考えている。「女性のPIでレベルの高い研究をしている人は少ないが、女性というだけで選ばれる」などと言っている教授がいたが、こういった不公平を感じさせる配慮がそのような事実と異なる発言をする人を助長させていると思う。
※	4	意味不明
※	1/4	指定シンポジウム、ワークショップなども全てそうすべき
※	3/4	研究成果の価値は、ジェンダーと関係無いはずで、ジェンダー比を指定することは、自由な研究の保証と逆行する。
※	1/4	規程を設定しなくともジェンダーバランスが取れるのが望ましく、また、オーガナイザーもその点も配慮して企画するのが望ましいと考えるが、やはり、規程を設けないとジェンダーバランスが保たれない場合が危惧されるため、適切であったと、現況では考える。
※	4	学会員の男女比に基づいているなら理解できる
※	1/4	世界的な流れということでしょうか？海外の学会に最近では参加しておりませんが、そうなのでしょう？
※	3/4	趣旨が不明。特定の条件はどのような条件であっても性差別に当たる。バランスに配慮する程度の記述で十分である。
※	1/4	当然のこととして続けてほしい。
※	1/4	ポストドクや助教クラスの女性研究者が少ないので、演者を募集するのに正直困りましたが、その分学生の発表機会が増えると思うので、その点はとても良いと思いました。定着するまで長期的な視点でやり続けたほうが良いと思います。
※	2/4	分野によっては、女性が少ない場合もあり、演者を集めるのが困難。努力義務ぐらいにするべきである。そもそもLGBTの演者がいた場合に、学会側はその演者のジェンダーをきちんと判断できるのかどうかすら疑問だ。

質問9. 公募シンポジウムの企画応募条件に「指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしない」が入っていたことについて〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.賛同し支持する      2.理解はするが適切か疑問が残る      3.適切でないと思う      4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/4	学会として、特定のジェンダーに偏らないことに配慮することは大事である。一方で、一つ一つの小さな(シンポジウムの)領域では、それが達成しづらいこともあると思われる。学会におけるシンポジウム全体として、ジェンダーの偏りに配慮することとし、一つ一つのシンポジウムの指定からは外しても良いと思われる。男性だけ、女性だけのシンポジウムもあるような、(シンポジウム内部での多様性だけではなく)シンポジウム自体が多様であることも重要かと思われる。採択の際にコントロールすれば、全体で偏ることはないと思われる。
※	1/4	指定演者にジェンダー枠がなければ、男性ばかりになるシンポジウムになるか、あるいは女性が一人だけ入る状況になる傾向があり、今後は変化するかもしれないが、現状では応募条件に無理やりでも加えることは良いのではないだろうか。それが学術的に適切かという非難があるかと思うが、それを判断するのが特定だけのジェンダーであれば判断にもバイアスが生じる可能性がある。
※	1/4	そのような条件が入っていたことは知らなかったが、研究内容はともあれ少数のジェンダーに大きな発表の機会を設けることは、少数ジェンダーの自己啓発や、後の世のジェンダーの相互理解につながる取り組みだと思う。不適切と思う方もいらっしゃるかと思うが、ぜひ続けてほしい。
※	2/4	そういうことを言わなくても偏らない学会なるのが理想だが、仕方ないと思う。
※	3/4	シンポジウムのねらいに沿った講演者を選別すべき。また、女性講演者を増やすために、部分的に発表内容に関わったラボのポスドクや学生に発表させたという話も聞いたが、ラボ内からすれば逆差別である。メインの仕事を中心的に行った人やその仕事を統括したスタッフが発表すべき。いずれにせよ、数合わせではなく、中身で選ぶべきではないか。数合わせのために発表させられるのは、本人に対しても失礼である。
※	2/3/4	余計なことをしないでください。制限をつける理由が運営側の都合としか理解できない。
※	2/4	そもそもそういう配慮をしている事自体が平等という概念に即さないのではないかと思います。特に理系のウェイトが大きい分野だと、高校生の段階で男性寄りになりがちなので、その前のもっと若い内から裾野を広げて長期間で克服すべき課題だと思う。今回も高校生が発表を頑張っていたのが印象的だったので、何なら中学校、特に女子校辺りにも学会という概念が有ることから広報活動を始めて、高校年代での発表実績を学会が評価して直接各大学に情報提供、進学支援する様に体系化すれば、ジェンダーの割合の是正はより進む様に思われる。
※	1/2/4	絶対数として女性が非常に少ない分野がある。
※	2/4	マイナージェンダー、即ち女性の社会進出は学会活動も含めて推奨するべきこととは思いますが、口頭発表演題はあくまでもその内容によって選ばれるべきであり、主催者側からの条件付けは別の歪みを生むものと考えます。

質問10. オンサイトのポスター発表について<複数回答可>(その他)

【回答項目】

1.よかった 2.よくなかった 3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	1/3	PDFからしかポスターを見られないのは絶対やめて欲しい。シンポジウムと同じようにWebでも読めて、お気に入り選択ができて、タイトリックで要旨が読めて、そこでPDFダウンロードができる、去年のように戻して欲しい。今年は仕方ないから端から全部見て回ったが、時間が足りなくてみられないし、どんな分野が何番からあるのかもPDFでしかわからないから、ものすごく困る。しかもPDFも1日の偶数、奇数でダウンロードできて容量が大きすぎる。今年は最低だったと思う。
※	2/3	ショートトーク、ライトニングトークを普通の会場でやらせてあげてもらいたい。その際は、スライド事前提出で、円滑な運営をお願いしたい。
※	3	会場都合ではあるが、二会場に分断されており不便だと感じた。
※	2/3	ポスター会場はひとつにまとめたほうが良い。また、国際会議場と距離があり、雨風がひどいこともあって移動が大変だった。
※	2/3	1日だけのためもっと長くてもよい。
※	3	時間は1.5時間x2の3時間くらいあったほうがよい。学生にとっては短時間でどれだけ多くの研究に触れられるか(一方方向でなく、相互に話が出来るか)、が大事なので、ポスターの時間が削られるならミニシンポジウムはいらない。
※	3	座長制で発表時間を設けた方がよい
※	2/3	時間が短く、興味のある発表を聞き切れなかった。1日に1000題は多いので時間枠は増やしてもらいたい。重厚な研究内容も多くあり、しっかり聞きたい。
※	2/3	1日あたりの数が多く、1~2個の発表で議論が弾むと、もう回りきれない。
※	1/3	ポスター時間の終わりがあまりアナウンスされてなかったような気がします。いつのまにやらミニシンポが始まる時間になっていたように思いましたので、お知らせが欲しかったなど。
※	3	ログインしなかった
※	1/3	late breaking abstractの演題も通常の演題と同じように配置されていたのは良かった。また、午前のシンポジウムの演題の関連ポスターがその日の午後にあるように配置されていたのは非常に良かった。プログラム委員の先生方が多くの労力を割かれたのではないかと思います。感謝します。
※	1/3	発表時間はもう少し長くても良いのではないかと？60分でなく、90分位がベター。
※	3	みてない。
※	3	会場が分かれているので、もう少し長くても良かった。
※	1/3	夕方にしてほしい。シンポジウム後に再度議論したいと思うものが少々あった。
※	3	比較的ポスターの間が広くてよかった
※	1/3	ポスター賞選考において、アブストラクトの段階から選考するのは意味がよくわからない。どのようなポスターを表彰対象に選ぶとしているのかが不明である。
※	3	1時間の討論時間はやや短く感じる
※	1/3	時間の長さはよかったが、夕方の方がよかった。
※	2/3	約1000件のポスターを、2時間で見て回るのは厳しい。3時間は欲しい。
※	2/3	いつもは13:30くらいに開始だったように思うのですが、12:55開始だとお昼を食べる時間が慌ただしくなると思いました。
※	2/3	関連分野が分散していたが関連した発表も日を跨いでいたりで聞きにくかった。
※	1/2/3	いつものことだが、時間が短くてすべて見て回れない。できれば一日のポスター数を減らし、会期を伸ばしてほしい。
※	3	参加していないので該当しない
※	2/3	演題数に対して発表時間が短いと思いました。とても周れる時間ではありません。またポスター賞の理由や採点基準についても不明瞭だと感じました。
※	1/3	ポスターの数に対して時間が短い
※	2/3	生化学会で顕著だと感じていたのだが、賞を安売りしてしまうのは賞の価値が下がるのでやめてほしい。そもそも、投票権のある人が投票対象全ての発表を聞いているわけではないので、選ばれた人が真にその賞にふさわしいと大半の人が納得できるような仕組みになっていない。もし、発表賞を作るのであれば、賞の応募と推薦書を演題投稿時に募り、発表セッション・テーブルを固めて評価しやすいようにしたほうが公平性が増すのではないかと。また、時間内にも関わらず、発表者がいないポスターが散見された。
※	3	ポスター数を鑑みるともう少し(30分でも良いので)長い時間欲しい気持ちもあります。
※	2/3	前日は移動と重なってしまうため、参加が難しい。前週に行うなど、ずらした方が良く思った。
※	3	参加していないので分からない。
※	2/3	時間が短すぎて、事前に狙っていたポスターは回れたが、予定外の偶然出会うポスターに避ける時間がなかった。勿体ない。
※	2/3	もう少し時間を長くしても良いと思う。
※	1/3	十分に閲覧し、質疑応答できてよかった。
※	1/3	演題数が多く、とても活気があり良かったです。
※	2/3	話す側としても、観る側としても短いと思いました。トークが白熱し、奇数偶数関係なく2時間話されているかたをよく見かけました。必須時間2時間だけでなく、ほかの時間も「居ます！」宣言の案内ができる、観客のほうも分散して来てくれると思います。私自身は8時間発表しました。
※	3	Q6と同じで、質問者が少ない時には苦痛でしかない。質問に来てくれた人に対する対応も十分でない気がします。
※	3	学会に参加していないので回答できません
※	2/3	発表時間はもう少し長いほうがよい。ポスターボードの感覚が広いのはよかった。
※	1/3	ポスター発表は1時間以上の発表時間を設けた方がよいと思う。

質問10. オンサイトのポスター発表について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

1.よかった 2.よくなかった 3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	3	私がいる場所と日本との時差が14時間あるので、海外からの発表も行いやすい時間設定をしていただけますと嬉しいですが、世界中のことを考えるとちょっと難しいかもわかりませんね。でもご考慮頂けますと大変助かります。
※	3	拝聴していない。
※	2/3	発表する側としても、聴く側としても、割り当てが1時間しかないのが短いと感じた。
※	3	長さは妥当だと思います。ポスター賞は初期選抜?の基準が不明な気がしました
※	1/2/3	ポスター賞が存在することを当日まで知らなかった。
※	2/3	長い
※	3	ポスター賞のトーク等が大々的にあるとよかったです。(あったのなら宣伝が足りなかつた)
※	1/3	もう少し時間が長ければとは思いますが、運営体制上仕方ないとも思う。
※	2/3	ポスターはやはり最後に発表時間を設けてほしい。他のセッションを見る時間がなくなるし、学生も早々に退散する。少なくとも、終了と同時ににはがすのではなく、最後のフォーラムが始まるくらいまではゆっくり見たいものである。
※	3	参加していないので、わかりません。
※	1/3	ポスター要旨を査読した者です。どなたがポスター賞を受賞したのか知りたかったです。
※	3	オンラインでも参加可能にして欲しかった
※	1/3	来年のポスター発表について17~19時って、ふざけているのか?誰がこんな事を考えた?
※	1/3	時間に余裕が出来たのは有り難かつたし、会場もある程度討論しても行き来可能なスペースが有ったのは良かつた。ただ、何時も通り偶数・奇数の2群に分けた場合だと、自分の発表と同じグループの場合に聞きに行き難い事があるので、一時的に発表者が場を離れている事を明示出来る仕組みや、逆にオンライン上で質問予約を出来る様にすれば、より皆が効率的に動ける様になると思われる。
※	2/3	ポスターセッションの時間が短いと感じた。
※	2/3	時間が短くチェックしていた演題の半分程度しか説明を聞けません。偶数・奇数で時間帯を分けていることは、ポスター発表者が他の演題を聴く余地を残すための配慮かとも思いますが、あまり効果的ではなくむしろ弊害となっているようにも思います。ワークショップの数を減らし、ポスター発表の時間をもっと長く取るべきだと思います。

質問11. 各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉(その他)

※英語のシンポジウムを全日程に配置、シンポジウムの時間帯は常に日本語/英語セッションが並行

※シンポジウム(135分)の前にミニシンポジウム(80分)を配置

※オンサイトポスター発表は午後一番の時間帯

【回答項目】

1.よかった 2.よくなかった 3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	午後は、ミニシンポジウム、シンポジウム、ポスターの順が良い。ポスターは最後に。
※	2/3	それぞれのセッションの間が短いせいか、結構次のセッションが始まる時間なのに終わっていないことがあった。また、同じ時間に参加したいものが集中しており、もう少しばらけさせられないのかしらと思いました。
※	2/3	ミニシンポ→シンポを両方見るのは体力的にきつい
※	3	ポスター発表後のミニシンポジウムは人が集中するためか、会場に入りきれないものも多く、聴講できなかった。Webで配信されているので、PCやタブレットで視聴できるスペースがあるとありがたい(談話スペースではないとしっかり位置付けた上で)。
※	2/3	夜まで参加する人が少ないのでスケジュールは再考して欲しい
※	2/3	企画したシンポジウムが最終日19時終了。ホールでは企業ブースの片付けを知らせる「ホテルの光」(別れの歌)が流れたりと散々だった。私の会場は幸い多くの方に参加いただけたが、他会場では関係者以外1~2名のところもあったと聞く。もう少し配慮が必要ではないかなと思う。
※	2/3	シンポジウムの時間が遅くまであって、帰りが大変だった。
※	2/3	終了時間が遅すぎる
※	2/3	帰る時間を考える、最終日の夜のシンポジウムに参加するのが難しいと感じた。
※	3	間隔が短い
※	3	午後のシンポジウムの終了時間はやや遅い。特に今回は開催場所の問題もあり、最終日の最後のシンポジウムまで当日帰宅できないため、最後のシンポジウム前に帰るという選択をした人も多かったと思う。
※	2/3	いつもは13:30くらいに開始だったように思うのですが、12:55開始だとお昼を食べる時間が慌ただしくなると思いました。
※	2/3	ミニシンポジウムの発表とシンポジウムの間隔がほとんどなく、ミニシンポジウムは時間も限られているので時間が押しすぎてしまい、シンポジウムの発表前準備等ができない様子が見えた。もう少し余裕を持った時間設定が良いと思います。
※	3	最終日の午後はもう少し早い時間帯で終了した方が、空路を使用する身には都合がよかった。
※	2/3	ポスター発表会場とシンポジウム会場間の距離が離れているので、時間が後ろにずれると、会場に間に合わなくなることが多々あった。
※	2/3	集中力が続く体力的に、午後は、シンポジウム⇒ポスターセッション⇒ミニシンポが良いです。
※	3	19時以降の企画は厳しい。
※	2/3	最後のセッションが遅すぎる気がした。
※	1/3	完全英語のセッションが数多くあったのは喜ばしかった。(留学生を複数名連れてきていたので)
※	2/3	関連分野のシンポジウムが同じタイムテーブルにあることが多かった。難しいとは思いますが、組み方に配慮をして欲しい。
※	1/2/3	各工夫がどのような効果を生んだのかが分からないので。何か意図して設計されたタイムテーブルなのですか？
※	1/3	毎日同じ構成で組まれていたので、混乱せずに済んだ。
※	1/3	「シンポジウムの時間帯は常に日本語/英語セッションが並行」という試みはとても良い。
※	2/3	ミニシンポジウムの必要性はあまり感じなかった。
※	3	学会に参加していないので回答できません
※	2/3	セッション間の時間が短いので、移動が困難。
※	2/3	シンポジウム(135分)の前にミニシンポジウム(80分)を配置:間が15分しかなく、聴衆の入れ替えやPC接続テストが慌ただしかった。
※	2/3	セッションが多く、参加が大変だった。もう少し、セッション間のゆとりが欲しい
※	3	聞きたいセッションが重なっていた。関連が高い分野が被らないと嬉しい。
※	2/3	遅くまでセッションが組まれると疲弊してしまうので、各日の終了時刻をもう少し早くしてほしいと感じた。
※	2/3	ポスター発表。あの時間帯だと、事前に読んでから発表を聞きに行くのが難しいと感じました。夕方以降を希望します。また、ポスター数が多く、聞きたいものの時間が重複しがちなので、3分割くらいにしてほしい
※	2/3	ポスターはやはり最後に発表時間を設けてほしい。他のセッションを見る時間がなくなるし、学生も早々に退散する。少なくとも、終了と同時ににはがすのではなく、最後のフォーラムが始まるくらいまではゆっくり見たいものである。
※	3	参加していないので、わかりません。
※	3	オンラインでずっと参加可能にして欲しかった
※	3	特に、可もなく不可もなくでした。
※	2/3	最終日はもう少し早く終わってほしい
※	3	シンポジウムとミニシンポジウムの順序については、出席した限りにおいて問題は感じなかったが、逆の順序も試しても良いかもしれない。
※	1/3	外国人を演者に招待しておいて日本語でやっているシンポジウムはどうかと思った。
※	2/3	余計なことをしないでください。制限をつける理由が運営側の都合としか理解できない。
※	1/3	難しいと思いますが、フロアが多くなりそうな会場は大きめにとっていただけると幸いです(自分の参加先は大体適切でした)。
※	2/3	ミニシンポジウムとシンポジウムの時間が短かった。ミニシンポジウムとシンポジウムの時間以外の内容の違いがわからなかった。
※	2/3	ミニシンポジウムは年会ホームページに簡単に目に付いてアクセスできる項目がなかったのが素通りしていました。



質問13. 年会で導入したシステム・サポート体制などについて〈複数回答可〉(その他)  
 ※アトラス社Confit: 年会参加登録/演題登録、要旨・プログラム検索/視聴サイトシステム  
 ※オンラインポスター・講演セッションはZoomウェビナー使用

【回答項目】

- 1.不便を感じず年會に参加できた      2.不便を感じるがあった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	ログインする際にできるときとできないときがあった。Webページだと不便。以前のようにweb版とアプリ版を連動して使えるようにしてほしい。年會前の連絡事項もメールでちょこちょこして管理がわずらわしかった。企業ブーススタンブラリーなども含め、アプリのマイページなどで一括管理できるのが望ましい。
※	2/3	シンポジウムごとの公演タイトルはどこを見れば一覧が見ることができかわからなかった講演タイトル
※	2/3	ポスター閲覧だけシンポジウムとは別システムなのは納得いかない。使い勝手が悪すぎる。今年システムは今までで一番悪い。絶対に来年はやめてほしい。なぜこの仕様で問題ないと思ったのか理解に苦しむ。ポスターをみたことないのでしょうか？
※	2/3	毎回AMセッションに時間が合っていて、午後のセッションにいちいちスクロールする必要があった。またシンポジウムタイトルと座長のお名前が、ブラウザ依存性だとは思いますが、入りきっていない点も問題だと感じた。
※	2/3	ネット環境が弱いところでは確認しづらいことがあった。
※	3	ブックマーク機能は便利だった。ただ、すぐにログアウトされてしまい、何度もログインするのが手間だった。
※	2/3	海外からのゲストで使い方が分からないという人がいた
※	2/3	ログインを求められる頻度が高い。ブックマークした発表でタイムラインを作れるとありがたい(外部カレンダーアプリへの出力でもいい)前回のComBio2017生化学会共催の時のアプリがとても使いやすかった。発表のメモを記載できるフォーム(自分だけ見れる)があると嬉しい、さらにPDF出力した時にそのメモも出力できると後から見返しやすい。
※	2/3	アプリがあった方がよい。アクセスが不便だった。要旨がどこにあるかいつも探していた。
※	2/3	スマホで演台は探しにくい
※	2/3	ポスター会場ではネット回線が重たいことがあり、プログラム検索が見れないことがあった
※	3	博多の交通網についての記載が余りに不親切である。ネットでの検索も可能ではあるが、空港や駅から具体的にどうやって会場に着けるのかについて博多の交通網の概略を記載の上で具体的に示して欲しかった
※	3	ブックマークした演題があるシンポ等がスケジュールに表示されるシステムを入れて欲しい。
※	2/3	ブックマークしたものと1日のプログラム表との連携ができず、オンサイトでスケジュール管理が難しかった。その一方でシンポジウムはオンラインで拝聴できたので、オンラインだけであれば、そのようなスケジュール管理をせずとも聞きたい講演を聴くことができた。
※	1/3	一覧のpdfが欲しかったweb上で拡大表示しても目が悪いので見えない スクショ撮って拡大は不便
※	2/3	要旨・プログラム検索が使いづらかった。
※	3	馴染まないと使いにくい
※	2/3	Confitはログアウトが頻発し使いにくかった。
※	2/3	オンライン参加の方法が分かりづらかった。
※	3	本大会の年會サイトは非常に使いにくかった。まず本会公式サイトへのリンクが必要。ログイン画面にたどり着くまでが沼。タイムテーブルとブックマークとのリンクがない。そもそもブックマークまでたどり着くのに超難儀。この年會サイトが発表や講演を探す唯一の手段なのだから、それらの情報を最初の画面に表示すべき。あらかじめ聴講希望講演を検索したうえでブックマークしたのに、それを探し出すまでかなり難儀した。
※	2/3	ポスターセッションのポスターを探している時に抄録を閲覧すると、ポスター一覧に戻る時に最初に戻ってしまい、また番号1から探さなければならなかったのが面倒だと思いました。興味のある発表にマークをつけて、それがタイムテーブルに表示される機能があれば良いのと思いました
※	1/3	グラフィックアブストラクトを登録する人が少なかったり、ほとんど機能していないコメント機能など、なくてもいいんじゃないかと思った。
※	2/3	オンラインConfitが非常に使い勝手が悪かった。冊子や専用アプリを省略したことは理解できるが、その分、オンラインシステムのユーザーインターフェイスはしっかりとしたものにして欲しかった。例えば、ログインしないと自分のいいねした演題が見えないが、スマホを閉じると勝手にログアウトしてしまい、再度ログインしないと演題が確認できない。タイムテーブルも、現時刻のバーは移動するが、画面表示は朝の時間帯に勝手に戻ってしまうため、毎回スクロールする必要がある。そもそもインターフェイスが見づらく、必要な情報がわかりにくかった。是非、改善を期待したい。
※	2/3	同じブラウザからアクセスしたとしても、ログインを求められ、その回数が多すぎる。
※	1/3	Zoomの音声が悪い時や画像が乱れる時があったが仕方ないと思う。視聴サイトシステムはタイムテーブルに戻り視聴する部屋を変更時に上手くいかない(ログアウトしてしまう)ことがあった。
※	3	今回不参加でしたので、判りません。
※	2/3	Zoomでオンライン配信にしたせいなのか、機材の接続トラブルで映像が途中で切れるトラブルが多発していた。そういった事が起こると集中が途切れてしまうし、その復旧で時間をロスするので煩わしさを感じた。もし、オンライン対応にしたせいでそれが起こるのであれば、オンラインをしなくて構わない。
※	2/3	冊子がなく基本的な学会の情報(参加者の注意点、発表形式、タイムスケジュール)が分かりづらい。ポケット版の簡易プログラムだけでも先に郵送してほしい。
※	2/3	各会場が離れすぎ
※	2/3	大会会場での配布ではなく、事前に、年會プログラム集冊子が欲しかった。
※	1/3	会場が狭くて立ち見になるセッションはzoomで見られるのは良かった。
※	1/3	システム自体には不便を感じなかったが、マリンメッセのWiFiがあまりに弱く、ポスターの検索を現地でできないことが多かった。アプリを作成しないのであれば、会場のオンライン環境を整える必要があると思う。

質問13. 年会で導入したシステム・サポート体制などについて〈複数回答可〉(その他)  
 ※アトラス社Confit: 年会参加登録/演題登録、要旨・プログラム検索/視聴サイトシステム  
 ※オンラインポスター・講演セッションはZoomウェビナー使用

【回答項目】

1.不便を感じず年会に参加できた      2.不便を感じるがあった      3.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/3	使用機材が2世代前くらいのもを使用しているためか、配線の数が膨大で時折断線の原因とするスライド投影の中断が発生した。スライド投影と配信だけなら今時個人でもできる。スタッフの数が多すぎて大袈裟。暇を持って余している様子に見えた。あれでお金を取られているとなると不満が残る。あと、Confitの作成するwebsiteはとてもわかりにくく、さらに雑過ぎる。●●の年会でこの業者を利用したがwebsiteがクソだったので学会側でわかりやすいものを構築した経験がある。
※	2/3	Confitのログイン状態を保てず、頻繁に入り直した。無意味に時間をとられ、非常に面倒だった。また、会場のネット環境が脆弱なのに、オフラインで使えないのも非常に困った。
※	2/3	ブックマークに登録した演題が入っているセッションについて、タイムテーブル上でマークが付くとよかったように思う(以前の年会や別の学会の年会では、そういう仕様になっていることがあった)。
※	2/3	勝手にログアウトしてしまうことが多く、その都度のログインが面倒。
※	3	プログラム検索が使いにくかった。過去のアプリの方が利便性は高いと感じた。
※	2/3	ブックマークした項目がシンポジウムなど会場ごとに表示されるが、時間帯ごとの表示も欲しい。ある時間帯に並行して何をブックマークしていたか知りたい。
※	2/3	検索がもう少し詳細にできると嬉しい
※	2/3	昨年までより大幅に動作が早くとも使いやすかったが、iPhoneのSafariで使用していた際頻繁にログアウトされてしまった点は不便に感じた。
※	2/3	要旨・プログラム検索に使いにくさを感じた。
※	2/3	入り口がバラバラでとても不便でした。検索と、名札ダウンロードと、ビジュアル要旨アップロードが別々でほんとに不便でした。
※	2/3	ブックマークはできるが、自分自身のタイムスケジュールなどを作れなかった。
※	3	学会に参加していないので回答できません
※	2/3	スケジュールがもっとわかりやすければ便利だと思った。
※	2/3	使いこなすことができなかった。マークをつけた演題のまとめをonlineで見れるようにしてほしい。
※	2/3	ログアウトが頻繁に起こりすぎる。検索などのインターフェイスは改善の余地がある。
※	2/3	要旨検索サイトについて、一度サイトから離れると必ずログアウトされ、再ログインしなきゃいけないこと。とても使い物にならなかった。
※	2/3	Confitは使いにくかった。すぐにログアウトしてしまう。要旨に会場情報が表示されない。検索結果から要旨を見て、一覧に戻るとリストの最初に戻ってしまう。ブックマークしても時間帯順に並ばない。→検索機能、ブックマーク機能が充実したアプリがあった方がよい。
※	3	紙媒体のプログラムもあった方がよい。
※	3	特に何も感じなかった
※	2/3	企業ブーススタンプラリーと大会のシステムが分かれていて使いにくかった。PDFでプログラム一覧を配って欲しかった。お気に入りした講演をまとめて印刷できる機能はとても便利だった。
※	1/3	Confitでのプログラムの検索時、ポスターの各セッションにリンクがあると良かった。ブックマーク機能は良かったが、会場、日付、時間が見づらく(小さく)把握に手間取った。
※	2/3	要旨集をダウンロードしたが、日本語検索がうまくできなかった。PDFのサイズも大きいし改善が必要に思う。
※	2/3	分生のHPから要旨・プログラム検索サイトへのリンクがとても分かりづらく不便だった。
※	2/3	プログラム案内の構成が完全に時間順になっているので、時間帯が後の演題などのチェックについて不便を感じることも多かった(ページ数が膨大なので)。
※	2/3	数年前に、オンラインプログラムを始めたとき、アプリで行っていたものがとても使いやすくてよかった。ここ数年のwebベースのものは使いにくい。あえて言う、ひどい。
※	2/3	プログラム検索サイトが携帯だとすぐにログアウトしてしまい使いづらかった。zoomウェビナー使用は大変有り難かった。(難聴で会場では聞き辛い時、および、体調不良でホテルの部屋で視聴する際に大変役立った。)
※	3	参加していないので、わかりません。
※	2/3	オンサイトポスターでは、ポスターの場所を探すのに時間を要した。会場内での列にどの範囲の番号のポスターが配置されているかわかるマップを、プログラム小冊子に記載して欲しかった。
※	2/3	会場内でのネットが不安定なのか、ログインがすぐに解除になるのか、プログラムの検索と要旨の検索に不便を感じるがあった。Zoomの方は不便を感じなかった。
※	3	シンポごとの要旨をまとめて見れるとよかった。そのようにされていたかもしれないです。私の見方が悪かったと思います。
※	3	Confitについて。概ね問題はなかったが、検索が意図通りに動かないことがあった。使用時のコツについてFAQがあれば助かったかもしれませんが(実はあった?)。
※	2/3	要旨・プログラム検索に関して、スマートフォンでログインしてもすぐにログアウト状態になってしまい、使いづらかった。視聴サイトシステムはとても良かった。
※	2/3	発表タイトルの一覧がほしい。膨大な発表数に目を通すことが難しい。
※	2/3	年会参加証がどこにあるのかわからなかった。
※	2/3	アブストラクトをPDF見ようとすると、全てのアブストラクトをダウンロードしなければならず、巨大なファイルになった。一部の印刷もうまくできなかった。また、画面から印刷しようとするとフォーマットがずれて見辛くなって使えなかった。スピーカーと演題で参加するシンポジウムを決めることが多いので、その情報も小冊子に入れてもらいたかった。
※	2/3	日本生化学会と共通のID・パスワードだったのが解り難く、再設定する必要が有って混乱した。

質問13. 年会で導入したシステム・サポート体制などについて〈複数回答可〉(その他)  
 ※アトラス社Confit: 年会参加登録/演題登録、要旨・プログラム検索/視聴サイトシステム  
 ※オンラインポスター・講演セッションはZoomウェビナー使用

【回答項目】

- 1.不便を感じず年会に参加できた      2.不便を感じるがあった      3.その他

回答者 番号	回答	その他記述
※	2/3	Confitは、スマホで使うとすぐにログアウトしてしまうので、不便だった。シンポジウムの要旨も含めた内容の一覧-各talk-要旨-発表時間-場所がもう少しわかりやすい形で連動してほしい。いちいちログインを聞かれるので、本当に使いにくかった。ブックマークしても、セッションごとにしか並ばないので、トークごとに並ぶようにしないとスケジュールとして使えない。セッションの場所、ポスターの場所がわかるようにしてほしい。
※	2/3	複数のワークショップやポスターの間を行ったり来たりするので、チェック済みの演題を日程表などにコンパクトにまとめて目視確認が簡単になればいいなと思いました。

質問15. 経費節減のため参加章・ポケットプログラム(日程表などのプログラム小冊子)の事前送付を行わなかったことについて〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.特に手間や不便さを感じなかった  
 2.年会参加費を抑えるためなら許容できる  
 3.年会参加費が多少上がっても事前に印刷・郵送してほしい  
 4.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/4	事前送付なしにしたことで、一人あたりの参加費がどの程度おさえられたのか明示してほしい。
※	2/4	心配なのは印刷するだけなので一人登録して複数人がコピーして参加してしまい、結局経費削減にならない、ということになりかねない気がする
※	1/4	大学内部の問題ですが、現地に行った証明を別に用意しないといけないのは少し面倒でした。企業ブースの配布物で対応してもらいました。
※	2/4	年会参加費が2万円と非常に高かったが、プログラム集などは発行せず、何にそんなにお金を使ったのか、疑問が残る。
※	3/4	時代に逆行しているかもしれないが、希望者だけ、かつ有料でよいので、要旨集の印刷版を作成・配布して欲しい。特定のポスターだけでなく、気軽に周りながら紙の要旨集の隙間に簡単なメモを残せることはとても意味があり、当時の要旨集は大事にとってある。逆にPDFバージョンは全く残していない。
※	1/4	経費節減・資源節約のために、とてもよいと思いました。
※	1/4	経費削減すべき。無理に全員に配る必要ありません。
※	2/4	タイトルすらないポケットプログラムは事前配布であろうが現場配布であろうが何の役にも立たない。それで臨床系医学会の倍近い会費を取るのはい理不尽である。
※	4	ダウンロードサイトが一つ一つ細かく分かれすぎていて事前に印刷する際非常にストレスを感じた。ダウンロードできるサイトを一つにまとめて欲しい
※	1/4	経費削減のうまいアイデアだと思います。
※	2/4	参加証がケースのポケットに収まりきらなかった。
※	4	会場で受け取れることが伝わっていなかった。わざわざ印刷して持って行った。やっぱり事前にほしい
※	1/4	プログラム小冊子はもっと簡易な製本で良いと思いますし、無いなら無いで必要なページを参加前にプリントして持参します。
※	2/4	環境負荷低減のために冊子の配布はやめた方がよい。
※	2/4	会場で配られた簡易版プログラムは、会場を探すのには役立ったが、その中の講演タイトルがなく、そのシンポジウム名も略称で書かれていたり、学会期間中に携帯している必要を感じなかった。
※	2/4	ポケットプログラムだけでも欲しかった。もしくは印刷しやすい必要最小限のものをサイトに分かりやすく置いてもらえるとうれしかった。ポケットプログラムでのシンポジウムのタイトルと実際のタイトルが違うのが非常に紛らわしくて良かった。
※	2/4	ポケットプログラムには演題の記載がないため、結局オンライン要旨集を見る羽目になった。それならば、ポケットプログラムは印刷代の無駄なのでない方がよい。
※	2/4	オンラインプログラム上で日本語検索機能が働いていなかったの、プログラム検索がしやすい方法を考えて頂きたい。
※	1/4	名札を事前印刷にしたのはあまり意味がないかも。(結局ネームホルダーは現地で受け取る訳なので)
※	3/4	演題が分からないのでほとんど役に立たなかった。費用がかかっても良いから演題くらいは載せて欲しい。あの程度の内容なら自分でプログラムPDFの必要な所だけ印刷して持ち歩いても良いくらいのもので、費用削減を考えるなら逆に作らない方がまし。プログラムPDFはロックがかかっている、しおりもマーカーも付けられないので使いにくい。オンラインのプログラム検索システムは日程表と連動しているところは良かったが、会場をはしごしないといけない時もあるので、自分がお気に入り登録した演題が一覧で見えると良いと思った。
※	3/4	私自身は紙媒体を全く必要としないが、大学の事務が学会参加の証拠資料として相変わらず紙ベースのものを要求してくるため、出張申請の手続きには必要だと感じた。
※	1/4	ポケットプログラムを会場で手にはしたが、結局、不要だった。
※	4	いらぬ、iPadで綺麗に見えるコツが必要
※	2/4	あまり有益な情報とならなかった。少し詳細な情報(シンポジウム内の講演タイトル位)が入った、プログラム集の方がよかった。すべてが入ったプログラム抄録集mbsj2024_program_allは1ギガバイトの容量があり、余り有難なかった。抄録を除く情報が有難かった。表紙や目次があった方が使いやすかった。
※	3/4	会場マップ、日程表、タイトル一覧が掲載された冊子体があった方がよい。(要旨は含まれていなくてもよい。)今回現地で配布された冊子体は情報量が少なすぎた。
※	4	ポスター、シンポジウムともに演題の情報は紙媒体でほしかった。大きい学会ならではの予期せぬ出会は一覧性の高い紙媒体が向いていると思います。
※	4	オーガナイザーだけでなく、発表者名、その時間 は必須。
※	1/4	会場アクセス、スケジュール概要、演題検索へのリンク、を開会前にメールでリマインドしてほしい(学会直前まで、学会のことを考える時間が作れないでいるため)。
※	1/2/4	印刷などの軽減は進めるべきだと思う。
※	2/4	持参についてはHP上で注意が向き易いように複数箇所(応募項目など)に記載するなど工夫をした方がよいと思った。
※	1/2/4	私は不便を感じなかったですが、参加章を印刷せずに会場に出入りした会員も多かったのでは?今後、事前案内をより徹底して、事務局の手間の軽減などの点で、ぜひ定着させたいですね。会場に設置したポケットプログラムは、結構余ってませんでしたか?
※	1/4	経費節減のためと云いながら、参加費1万超えてどうなっているの?今までの規模を維持しようとせず、参加費を1万以下におさえて可能な範囲で実施してください。
※	1/2/4	基本的に事前送付せずに経費削減するやり方には大いに賛同できる。ただ、ポスターどころかシンポジウムですら具体名を表記しない程度のポケットプログラムであれば、HP上でのPDF版の公表はもっと早くても良かったと思われる。
※	1/4	合理的で妥当だと思います。
※	2/4	ポケットプログラムにせめてシンポジウムの正式なタイトル、概要、発表者くらいは入れてほしい。

質問15. 経費節減のため参加章・ポケットプログラム(日程表などのプログラム小冊子)の事前送付を行わなかったことについて<複数回答可>(その他)

【回答項目】

- |                              |                      |
|------------------------------|----------------------|
| 1.特に手間や不便さを感じなかった            | 2.年会参加費を抑えるためなら許容できる |
| 3.年会参加費が多少上がっても事前に印刷・郵送してほしい | 4.その他                |

回答者番号	回答	その他記述
※	1/4	以前からすると年会参加費はかなり高額になったなあという印象なのですが、それでもまだこのような経費削減が必要なのかと考えると運営される方々の努力に頭が下がります。

質問19. 分子生物学会では「学会・年会の国際化」を促進しています。そのために、100～200万円程度を年会の特別予算として用いるとしたら、どのような使途がよいと思いますか<複数回答可>（その他）

【回答項目】

1. 海外機関と連携して年会参加者向けの実用的な企画を行う費用
2. 公募シンポジウム等で海外演者を招聘する際の旅費補助増額
3. 海外在住の若手会員へ年会旅費を援助
4. 講演セッションの通訳・字幕サービス等の言語サポート費用
5. その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/5	企画の際に、サポートが14万円だとヨーロッパやアメリカの研究者を呼びづらいです。特に若手が企画した際には、足がでると、その補充のための対応に追われることになるので、もう少し一人あたりの金額を増やしていただきたいです。
※	2/5	100～200万円程度では海外演者を招聘するのも数がかぎられていて効果がうすい
※	5	海外の学会との合同大会開催
※	5	国内の若手にももっと幅広い支援が必要かと思えます。
※	4/5	通訳・字幕サービスはほしいが、以前にやった(他の学会か?)が、レベルが余りよくなかったと思う。難しいと思う
※	1/5	海外からの演者に旅費を出すのは勿体ないと思う。今回のようにオンライン参加で十分。
※	2/3/5	なるべく一人当たりの経費を抑えて、多数の方に広くサポートをされる方がいいと思います。節約はできるはずです。
※	4/5	海外演者はZoom参加でも良いと思う。最近のZoomでは字幕サポートも出せて一石二鳥だと思う。
※	1/5	既に海外のビッグネームを招聘できているので、それらの人が学会中に暇にならずに国内の(学生などの)若手研究者と交流できるようなイベントなどがあればいいと思う。EMBO workshopはややハードルが高い。
※	2/5	日本に来るメリットはないと思う科学者が多いと思うので旅費だけでなく謝金も支払うべき
※	3/5	日本の学会をアジアの中心となすべく、海外若手研究者の旅費支援(一部でも)の使途が望ましい。
※	2/5	旅費が高いため、今年度は海外招聘は持ち出しになりました。
※	3/5	日本に帰ってきたい留学中の方のサポートがあるとよいように思います。
※	5	ならば日本語と英語を混ぜるのではなくすべて英語にすべき。中途半端。
※	2/5	シンポジウムでの海外演者の数が少ないと感じたから(アジア周辺諸国も含めて)。
※	1/5	CSH, EMBOの共同経営にしては? レベルを上げないと年々日本は劣化し、いまや、韓国や台湾にも大きく水をあけられている事を、理事たちは真剣に考えてください。危機的状況です。
※	4/5	多様性を重んじるのであれば、国際化の名の下に言語を英語に限定するのは非合理的である。ならば、賛否両論あるだろうが、昨今のAI翻訳・通訳技術を活用し、多言語に双方向で対応する初めての学会形式に挑戦してみてもどうか?
※	5	国際化は別の枠組みでやれば良いと思う。
※	5	誰のための会なのか? おもてなしに費用をかけるくらいなら、正会員13,000円参加費を抑えてほしい。
※	5	200万ではできることが少ないですね。
※	2/5	100万円程度はインフレによる旅費負担の増加で使い果たすでしょう
※	5	余計なことをしないでください。運営側の都合ですよ?
※	1/5	数年前に年会参加費を唐突にUPLしたのは驚きで、もっと導入に時間をかけて理解を求めべきだと思う。

質問21. 今後の年会の開催形式について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.オンサイト開催を基本としたハイブリッド開催がよい  
 2.オンライン先行プログラム+コンパクトな完全オンサイトの併用がよい(MBSJ2023神戸年会形式)  
 3.完全オンサイト開催がよい 4.完全オンライン開催がよい 5.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	2/5	ポスター発表会場は大混雑でなかなかゆっくり見れないし議論も深められない。オンラインをメインとして縮小型オンサイトを併用するのが良いのでは？海外からの発表促進にもつながり、国際化の一助となりうる。
※	1/5	ハイブリッド開催でもよいが、ハイブリッドとすることで大会参加費が相当額上がっているのであれば再考して欲しい。基本はオンサイトで。
※	2/5	並行するセッションが多いため、見ることのできなかつた発表も多いオンデマンド配信があると嬉しい
※	3/5	オンラインポスターはもうなくても良い 現地参加なのに、わざわざオンラインを見にくい気がしない
※	3/5	オンライン先行プログラムの意義がわからない
※	1/5	夕方遅い時間のシンポジウムはオンラインもあるとありがたいです。
※	3/5	オンサイトのみにして、参加費を安くする
※	3/5	オンラインより、オンサイトの方がコミュニケーションが密になって良い。
※	3/5	オンサイトが良いと思う。しかし、keynote lecture や 指定シンポジウムは、ハイブリッドも良いかもしれない。
※	1/5	旅費等の高騰も考えると、遠方からの参加者への配慮としてオンラインでの参加の選択肢は残して頂きたい。オンサイトのみの場合、聴講可能なオーラルセッションの数は物理的に限られてしまうが、オンライン・オンデマンド配信の選択肢があれば得られる情報・交流の機会の増加につながり、参加者の満足度は上がるであろう。また、参加形態に応じた参加費の区分けについても考えて頂けると、より気軽に参加出来る会となろう
※	1/5	聴講はオンサイトのみだが、発表はオンライン可のような選択肢があってもよいと思う。
※	3/5	配信があることで未発表データを示すことを躊躇した。
※	5	オンサイト開催こそが学会の価値だと考えているので、オンラインポスター発表は全く魅力を感じません。
※	1/5	期間内でも構わないので、オンデマンド配信があれば良かった。期間内であれば未発表データのプレゼンも問題ないのではないか。
※	5	満員の会場のオンライン配信はとても気が利いていると思いましたが、十分に定員に余裕のある会場のオンライン配信は必要ないと思いました。これで経費が削減できませんか？
※	1/5	口頭発表をzoomでリアルタイム視聴できるシステムは非常に良かった。混んで入れないセッションや移動時間の削減が出来た。
※	1/5	聴く側としてはオンデマンドがあるとより良い。既発表データなどで発表者がokならオンデマンドにしてもらえると時間が重なるって聞けなかった発表も聞いて嬉しい。オンデマンドは事前予約制でも良いので欲しい。ポスターは未発表データも多く抵抗があり今回の方法が良いと思う。ダメだと言ってもオンサイトでも撮影する人はいるので。
※	3/5	参加したシンポジウムでは特にオンライン視聴者からのフィードバックがなかった。オンライン配信することで自由闊達な議論が起こるのであればまだしも、逆にそれが阻害されるのであればオンラインはない方がよい。
※	1/5	シンポジウムで講演会場に入りきれないことがあり、オンライン配信があったので講演会場の外で聞くことができ、非常に助かった。
※	1/5	26日のオンラインポスターにはどの程度の人が来たのでしょうか？
※	3/5	ハイブリッドは望ましいが、それをやると演者が演題のPCに釘付けになり、レーザーポインターも使えないのでオンサイト参加者にとってはわかりにくい。発表者にとっても、PCから離れて身振り手振りを使ってパフォーマンスを披露したいのにそれができないのでやりにくい。
※	3/5	前日オンラインポスターは、移動日と重なるため、参加は難しかった。
※	1/2/5	バーチャル学会
※	1/2/5	シンポジウムなどで論文発表済みの内容についてはオンデマンド配信がアウト助かります
※	1/5	期待するハイブリッドは、前日のオンラインポスターセッションではなく、ライブ配信やオンデマンド配信を指します。ライブ配信は経費の面から厳しいと思いますが、ライブイベントによりオンサイト参加が難しい会員に参加と発表の機会を提供できる。オンライン会議は、コロナ禍の大きなレガシーと思います。
※	1/5	今回の会場ではマリンメッセと国際会議場との移動にそれなりに時間がかかることもあり、ハイブリッド開催のメリットを十分に感じられた。
※	1/3/5	前日オンラインポスターは不要。当日のライブ配信はあった方がよい。未発表データの扱いについては、ライブ配信があるという前提で発表者側が判断するしかない。
※	1/5	ハイブリッド開催は非常に良かった。満室の会場は立ち見となることもよくある。その場合にオンラインで参加している方が多かったように思うが、疲れないために非常にいい取り組みであったと思う。
※	1/5	シンポジウムの部屋が満席の時でも、オンラインで参加できてとてもよかったです。
※	1/5	現地参加でも満席の場合にはオンラインを使用できてよかった
※	1/5	現地での議論は大変有意義であり支持する。しかし、いろいろな事情により現地に参加できないケースはあり(例えば、育児・介護・予算・勤務体系、海外からの参加等)、いろいろな立場の研究者が参加できるようにしていただけたとありがたい。
※	1/5	オンサイトでの参加が基本とは思いますが、参加したいセッションが時間的に重複している時は、会場の移動時間を考えると、視聴は利便性が高いと感じた。
※	5	今回のオンライン参加者数から判断してはどうでしょうか。判断の線引きは難しいですが。
※	1/5	ポスターはオンサイトで閲覧し発表者と直接議論したい。企業ブースもオンサイトで訪問し担当者と直接議論したい。
※	5	現場で直に交流や意見交換の出来るポスターセッションや若手発表の場はオンサイトの方が良い。逆に、毎回席が足らずに、2時間近く立ち見をする事もしばしばあるシンポジウムやフォーラムの幾つかはオンラインで良いと思われる。また、事前に興味のあるシンポジウムの視聴予約の投票をオンライン上で出来る様にして、明らかに座席数が足りないシンポジウムは、学会会場内限定オンラインで別室で視聴可能に出来れば良いとも思う。
※	3/5	パンデミックが再興しない限りオンサイトでよいと思う。

質問21. 今後の年会の開催形式について〈複数回答可〉(その他)

【回答項目】

- 1.オンサイト開催を基本としたハイブリッド開催がよい
- 2.オンライン先行プログラム+コンパクトな完全オンサイトの併用がよい(MBSJ2023神戸年会形式)
- 3.完全オンサイト開催がよい                      4.完全オンライン開催がよい                      5.その他

回答者番号	回答	その他記述
※	1/5	会場間の移動が大変だったので、シンポジウムをはじめとするオンラインはよかった。一方、誰が、スクショしているかもわからないので、論文発表済みの内容しか口頭発表しにくいのではないかと感じた。
※	5	ポスター発表をもっと大事にすべきだと思います。膨大な数に上っているのを全てをカバーしきれないのは当然なのですが、キーワードで絞り込みをかけてしまうと関連してもしなくてもユニークで面白い発表を見逃してしまうことが沢山あります(それ以前に、絞り込みをかけたものだけでも全て見て回るのは難しいのですが)。実際にポスター会場を回らないと予期せぬユニークな演題との遭遇が難しいのですが、これをオンライン検索やオンデマンド配信を充実させることでカバーできるようになれば面白いかな、と思います。

質問22. 今後の年会における他学会との連携についてお聞きします<複数回答可>(その他)

【回答項目】

1. 単独開催/他学会と連携企画/他学会との合同大会が、数年ごとにあるのがよい
2. 他学会との連携企画を増やすのがよい
3. 他学会との合同大会を増やすのがよい
4. ConBio2017の時のような、コンソーシアム形式の合同大会がよい
5. 他学会との合同開催・連携企画の必要性をあまり感じない
6. その他

回答者番号	回答	その他記述
※	4/6	分生そのものも肥大化しすぎていると思うが、他学会との連携は促進すべき。
※	5/6	分生自体が人数も多く分野も多岐にわたっているので、連携の意義がわからない。連携するなら納得のいくメリットを明確に示して欲しい。馴れ合いはやめて欲しい。
※	3/4/6	生化学会と分子生物学会で、ほぼ同一のシンポジウムがありました。毎年合同で良いと思いますし、学会自体が統合した方が良いかと思えます。そんなに新しい話は出てこないわけで。
※	6	すでに規模が大きいので、演題数がさらに増える共催にする場合は、会期を長く設けてほしい。現時点でも4~5日くらいに分けてほしいと感じている。
※	1/4/6	生化学会や細胞生物学会と合同大会を数年ごとに企画してください。
※	6	1から4のどれでもよい
※	5/6	他の学会と合同にしてお茶を濁すのではなく、分子生物学会の特色をもっと打ち出す工夫が必要だと感じた。
※	2/6	ASCBやEMBOとの連携は良いと思う。
※	5/6	出張の手間を考えると合同開催も悪くないが、会期が長くなるので微妙に感じる
※	6	連携するにせよしないにせよ、気軽に参加出来る大会参加費であればありがたい
※	1/2/6	情報処理学会、バイオインフォマティクス学会など情報系の学会と連携したほうがよい。
※	5/6	今以上に規模が大きくなると聞きたいシンポジウムが裏切られるなどして楽しめなくなる可能性が高いと思う。
※	5/6	ただでさえ、分子生物学会の規模が大きすぎると感じているのに、他学会との合同開催にしてしまうと会場間移動に時間を取られて満足に講演を聞けないことが予想される。ポスター会場がシンポジウム会場と別なのはともかくとして、移動が階段の昇降程度で済むような規模で開催してほしい。そうでないと、他学会と連携したところでそのメリットを享受できない。
※	3/6	生化学会と一緒にやって欲しい。
※	3/6	学会や研究費関係の集いが多すぎて、運営側?発表側ともに発表会疲れしている印象がある。なるべく学会発表の開催を減らして、本来の研究時間を減らす努力をするのはどうか?
※	1/6	免疫学会が近い日程であれば合同で。そんなに出張旅費は出ないので。
※	2/3/4/6	学会の数を減らすためにも、合同で行うのが良い
※	2/3/6	分子生物学会は比較的参加者も多く単独開催でも十分であるが、かつてのExperimental Biologyのように、基礎系他学会との合同大会は、企画する立場では困難が予想されるが、学術の発展や、参加者にとってマンネリ化しがちな学会に新鮮さを感じられると考える。
※	1/2/3/4/6	特に、生化学会とは毎年一緒にやってほしいです。
※	1/2/4/6	毎回異なる分野や学会と連携していただければ、何年かに一度、自身の該当分野との面白いセッションが聞けて勉強になるかと思えます。
※	5/6	演題が多く集まる傾向があるので、他学会との連携を行うと3日間の期間内では消化しきれないと思われます。
※	6	どちらでもいい
※	3/6	日本生化学会との合同開催にしてほしい
※	1/6	アジア圏の海外と連携して、国際学会化も良いと思う。
※	5/6	分子生物学会だけでも大規模かつ多様な内容なので、これ以上規模が大きくなっても聴きにいけるセッションは限られており、何も変わらないと思う。同時刻に並行するセッションがさらに増えたとしても、「これは聴かないといけない」というセッションが1つあれば、他には参加できない。
※	5/6	単独で十分大きく、また非会員の演者の発表もある範囲内で許容している(ですよ?)ので、他学会との合同開催・連携企画の必要性をあまり感じない。ただし、年会長に実現可能なアイデアがあれば、その限りではない。
※	6	日本生化学会と合併してください。似た学会が2つもあるのは無駄。
※	1/2/3/4/6	多くの分野を超えた共同研究が進展している現状では、共通点のある学会の共催や交流促進が可能な形式を増やすのは必然であると考えます。特に、本年度の様に1ヶ月の間という非常に近い時期に生化学会と分子生物学会を開催するのは非効率極まりないと思われる。例えば、ConBioの様な開催形式を7月と12月という半年おきに年2回、それぞれ主幹事を生化学会と分子生物学会が行い、東日本と西日本で開催という風にすれば、移動や発表時期といった点でより融通が効くと思う。

質問23. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	バスの混雑がひどかった。市民が迷惑している。福岡開催であれば天神、博多駅からシャトルバスを出すべきでは？年会参加者の利用促進を図るには無料にした方がよい(有料なら一般路線バスを使うので)。バス会社への支払いは年会費増額分。横浜開催は特にないが、神戸開催時のポートライナー混雑は考えた方がよい。日常的に通勤に利用している方々が迷惑している。そのような対応も学会としての社会的責任と考える。それに必要な年会費の増額はやむをえない。
※	各シンポジウム等の講演タイトルだけの冊子が欲しかった。
※	夜遅くまでセッションがあるのは辛い。せめて18時までにして欲しい。会場間の移動も結構遠いのでかなり疲れるし、集中力も持たない。また移動が間に合わないためのオンラインで視聴できる部屋があると嬉しい。
※	マリンメッセ福岡は交通不便。会場間も遠い。博多は良いが、ヤフードームなど、駅から歩いて苦痛でない所を希望します。
※	移動時間も考慮されたタイムスケジュールで、余裕を持って次のセッションへ参加することができ、良かったです。ポスター会場は、対面ポスターとの距離が十分あり、窮屈なく見て回ることができました。
※	素晴らしいセッションがあって、しかし17会場もあると、隣のセッションに聞きに行けない。絞って良いから縦に長く、なるべく朝から晩までやって下さい。3日間でなく、3日半など、最後が午後のセッションにならないようにご配慮ください。せっかく素晴らしい会なので、後味よく終わってほしい。
※	一日当たりのポスター発表題数が多く、目的の発表を聞く前に発表時間が終了してしまうことがあった。開催期間をもう一日長くして、ポスター発表に注力できるようにしてほしい。
※	分子生物学会は若い学生が気軽に参加できる学会として大きな意味があったが、分野、特にシンポジウムの内容が細分化しすぎて、なおかつ英語がメインとなってきたため、ある程度経験を重ねた研究者でなければ全くついていけないのではないか(ついて行ける人だけの会になっていないか)。国際化の促進は重要だが、学生のサイエンスへの入り口という意味では本末転倒になっていないだろうか。学生も英語で論文を読むレベルは求めたいので、スライドやポスターは英語で、口頭発表は日本語で、という棲み分けがよいのでは。外国人スピーカーについてはこの限りではないですが、同時翻訳などの仕組みは積極的に取り入れて欲しい。
※	以前、幕張で開催時のように、年月日が記載されたボード(記念撮影用のようになっていたもの)があると、出張手続き処理で証拠として使用できるのでありがたい。
※	福岡での開催は新鮮味がよりよかった。同じ会場でもた開催される場合には、駅-会場間のバスの混雑について対応していただけると助かる。
※	私立大学で授業コマ数が多いため、ハイブリッド開催だと休講・補講の手続きをせず、授業時間以外はオンライン参加できてよかったです。その一方で、結局授業時間に重なった関心のある講演は視聴できず、また、現地にいないと収集できない情報もたくさんあるので、次年度からは休講・補講の手当てを大変でも行って、現地に参加しようと思います。
※	●●のブースがあったのが気に入りました。他研究室の方とも話題になりました。私達は分子生物学会として●●を認めていると理解しました。
※	オンラインでやる意味がもうわからない オンライン一方向性ならあまり学会でやる意味が無い
※	会場のサイズが適切で聞きやすかった(昨年の神戸年会は最悪だった！)
※	オンラインでシンポジウムを聴講できるのは、是非続けて欲しい。
※	広い部屋なのに人がガラガラな場合や狭い部屋なのに人が多くいる場合など部屋の割り振りが少し気になりました。
※	たまたま立ち寄ったシンポジウムで気づきやネットワークが生まれてくるのが学会の意義の一つだと思うので、最後のシンポジウムの時間が遅すぎると聴衆が少なくなってしまうのは残念でした。
※	コロナ禍からの回復をもっと鮮明に宣言して良いと思います。
※	MBSJ2024ポスター賞の審査の方法は、とても評判が悪かった。少なくとも前回までの方法に戻した方がよい。今回のように要旨の審査でスクリーニングをしてしまうと、実際に残った演題は期待はずれで、会場でのポスター審査に耐えられないものも多かった。今回の方法では、本当に優秀な発表を選ぶことができず、若手のピックアップにもつながらない。
※	ポスターは夕方から3時間ぐらいが良い。コアタイムを1時間程度にして飲食スペースを拡充してディナーポスターにすると議論が促進されるのでは？公募シンポジウムやワークショップは、企画者が毎年同じ人が多いので、直近のシンポジウム採択者は申請できなくなるとは？企画者も集まる人も同じ顔で新鮮さを感じないものが多く、せっかくの多分野参加学会なのに、もったいないと思います。
※	研究不正問題はあきらめたのですか？
※	福岡国際会議場と展示場との間が遠い。
※	・オンラインを基本としたハイブリッド開催良かったです。会場が混んでいては入れないときにオンラインで講演を聞くことができました。また、複数の会場の講演を交互に聞きたいときに、ホテルでオンライン参加することで可能になりました。今後も続けてほしいと思います。・今回の学会会場は交通の便がバスしかなく悪いので今後の使用はやめてほしい。朝、博多駅のバス停には長蛇の列ができて乗るまでに30分以上かかって遅刻しました。参加人数が多いので会期中はバスを増発するか、電車や地下鉄でアクセスできる会場にしてほしい。また、学会のHPではアクセスに関する情報が不足しており、バスの乗り場が分からなくて困ったという知り合いもいました。
※	要旨閲覧サイトで、個別の要旨を閲覧した後に戻るボタンで一覧リストに戻ると、毎回画面が一番上まで戻ってしまうのが、非常に使いにくかった。特にポスターセッション一覧の画面は見づらくて改善の余地があると思った。単に戻るボタンで戻ったときに、直前まで見ていた発表一覧のポジションに戻れば良い。
※	会場が広すぎて行き来するだけで大変ポスターを探ることが困難だった。
※	コロナ禍でオンラインの利便さも理解できるが、やはり対面でのオンサイトに勝るものはないと感じている。分子生物学という学問が一般化して、様々な専門分野の研究者が集まるのは楽しいが、やや散漫な印象を受けた。可能であれば、もう少し専門分野で分類したコンパクトな部会があると、より議論も盛り上がると思う。
※	今大会は天候が悪かったこともあることもそう感じた一因だが、会場へのアクセスが良くない点が問題に感じた。講演会場とポスター会場の距離が遠いのも難点だった。ただ、シンポジウムについてオンラインでも同時配信されていたのはこのような問題点をある程度補えていたように感じました。
※	些細な差の寿命研究など怪しい発表が多くなりすぎて会の自浄機能が疑われていると思う。

質問23. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	名札入れがポスター会場に見当たらなかった。
※	子供連れの方がちらほら見えてよかったなと思いました。子供向けのスペースの案内などあったら良いと思う。
※	学会本体よりも、企業のブースが生化学会はかなり減った。それに比べ分子生物学会はそこそこに維持できているが、問題はAE企画のブースの値段が高い。他の会社も使ってほしい。
※	高校生発表ポスターをざっと見たが、いろいろと疑問を感じた。一部のポスター発表は大学研究者との共著になっているものがあり、そういうものは、大学の人に教わりながらいわば普通の研究(の手伝いや準備)をやっている感じに見え、こういうことを高校生のうちからやる必要があるのかという疑問を感じた。一方、高校生だけでやっているものは、植物とかブラナリアとか高校生が扱える研究対象に対する観察的研究と、あとは研究だか何だかわからないものがあり、こうしたものは、背景となる研究の積み重ねが無いと、いわば夏休みの自由研究の延長のようなものであり、よほどのことがない限りアカデミックな「研究」の俎上に載せるのは難しいと感じた。成功例もあるのだろうし、高校生の経験としては無意味とは思わないが、全体としては、こういうのを推奨し継続していく必要があるのかよくわからないと感じた。高校生に対しては、研究者との対話、研究成果の発信・紹介、正確な科学的知識の普及活動、などのほうが有益なように思う。
※	パソコンやタブレットでプログラム・要旨を見るためにはWiFiが必須となるが、今回の学会ではWiFiが不十分で非常に迷惑した。今回運悪く天候に恵まれなかったが、雨対策のテントが不十分だったので次回の福岡での開催時には改善を期待したい。
※	年会サイト、年会アプリの使いやすさの改善を希望。ベータ版を先行公開して使用感について会員の意見を聞いてみてはいかがでしょうか。ポスター会場は1か所にまとまっている方がよい。wifi環境の改善を希望する。シンポジウム等で講演終了後にすぐ画面を待機画面に切り替えてしまうのは良くない。質疑応答時にも発表画面を有効に使いたい。ハゲタカジャーナルについての講演なども聞いてみたい。研究不正に対する学会の姿勢なども。
※	福岡は中心街からのアクセスがバスしかなく(徒歩も可能だと思うが今回のような嵐のときはきつい)、できれば福岡は次回以降止めてもらえるとうれしい。また、高校生の発表があるのは次代の研究者を育てるためにとっても良い試みだと思うが、ポスターの掲示場所が端っこであるとか、口頭発表の場所が狭いとか、このあたりもう少し配慮があっても良いと思った。高校生の参加を重視していることを学会として明示するのも必要なのではないかと感じた(今どきこの学会でも高校生参加は珍しくない)。キャリアパス委員会の企画に参加したが、ある程度は仕方ないのかもしれないが、委員会のメンバーが全て大規模な大学・研究所所属であることに疑問を感じた。性別以外の面でも多様性の考慮があっても良いのではないだろうか(企業や小規模大学所属、若手など)。
※	サイエンスピッチは復活させてほしい。ポスター賞を要旨でセレクションするのは良くないと思う。ポスター賞はいくつかのカテゴリ(優秀賞と最優秀賞のような)を作って数を増やすといいと思う。修士号学生、学部学生限定の賞も作ってほしい。ただでさえ博士の学生が減っているので、学会発表するような学生は是非自信と達成感を味わせてあげてほしい。どうしても重複して参加できないセッションが出るので、短期間のオンデマンド配信してほしい。それが難しいなら、重複するセッションの数を減らしてほしい。キャリアセミナーは毎年参加しているが、いつもパネリスト達が漫談して若い人のモチベーション上昇につながっていないように見えない。テーマを決めて、10分程度プレゼンしてもらい、それに質疑応答でディスカッションするような形式のほうが良いと思う。
※	2022、2023年度に行った、サイエンスピッチをまた行ってほしい。
※	オンライン発表はとても助かりました、ありがとうございます。地方在住かつ乳幼児がいると、手元に成果があっても発表がとても難しくなります。託児は用意していただけていますが、乳幼児は肝心な日に体調を崩すことはしばしばですし、同行させること自体子どもにとって体力的・精神的に負担になるので、預けるのに躊躇し、結局参加をあきらめる方は多いのではないのでしょうか。オンライン発表では、その辺の懸念が全部解消されました。また、オンライン発表は時間帯が選べたおかげで、発表日に他の教員に迷惑かけることなく学内業務も遂行でき、その面でもとてもありがたく思いました。今後ぜひハイブリッドでお願いしたいです。
※	今回は建物同士が離れていて移動がつかれました。お天気が悪かったこともあり、極力移動しなくて良いようにしていただいたので、本来聞きたかったのを諦めたりもしました。
※	オール会場が国際会議場とマリメッセに分かれていて、移動が大変であった。ポスターや展示会場がオール会場と離れてしまうのは理解できるが、オール発表はせめて一つの建物内で完結するようにして頂きたい。
※	本学会に限りませんが、講演中にパソコンを使用している人がおり、キーボードタッチの音が気になることが多々ありました。本人は気づいておられないので、こうした方々に対しての気遣いの喚起をしていただくとありがたいと思います(講演開始前のスクリーンなどで)。
※	今回の年会は、会場どうしが離れていて、不便を感じた
※	オンサイトでも部屋に入れないとかスクリーンが見えにくい場所とかで十分発表が聞けないことも多々あったため、ハイブリッドにしてもらった方がよい。オンサイトで参加できない日程の発表も聞けて大変嬉しいので、続けて欲しい。今回初めて科研費関係の企画を視聴したが科研費に関する情報や議論が聞けて有意義だった。やはり地方の細々とやっている研究者には研究費の中央集中化の傾向は大打撃であり、立場ある方々が危機感を持って研究費の増額のために戦う姿勢で取り組んでおられることがわかって心強かった。研究を続けたくともできないような環境になって来ていると感じており、これからも官公庁への働きかけなどを続けていただきたい。また今回のような情報交換の場を持っていたいただければと思う。
※	オーガナイザーの先生方にはいつもお世話になっておりますが、現在オンライン参加がもっと気軽にできるようになればと感じております(例えば、一部セッションのみ参加など)。
※	とにかく企業ブースのマップや公演内容などがwebで得にくいので、もう少し使いやすいシステムがよかった。
※	企業のスポンサーは不要。その費用の分だけ会費を安くしてほしい。
※	2017年以降の参加でした。本学会は生命科学系で最も会員数、参加者の多い学会だと思います。基礎から創薬、産業など発展的な生命科学を研究対象とする研究者が満遍なく参加できる学会でもあります。また企業側の参加数も最も多いと察しております。1つ提案ですが、発表分野のカテゴリの区分内のキーワードを今一度見直すべき時期に入っているのではないかと思います。分子生物学の学問的背景からの名残も大事ですが、もっと広い領域からもマッチングできるような発表区分とキーワードの設定を考えて頂きたいと思いました。あと本会の特徴を活かして企業との産学連携企画を増やして頂きたいと思った次第です。ご参考になれば幸いです。

質問23. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	各会場が離れていましたので雨の中での移動がかなり難儀でした。できれば、外を通った移動がないように一つの建物内でまとまって開催できるような会場を探していただけると嬉しいです。
※	今後2年連続で横浜開催になるが、横浜は日帰りで参加する人が多いと想像されるので、19時開始のセッションなどはガラガラになる可能性があると思う。そのあたりをうまくいくよう考慮されたい。
※	セッションの会場が2か所に分かれているため、移動が大変だった。セッション中の移動が必要な場合、発表1つ分ほどの時間が無駄になってしまう。
※	シンポジウム以外の一般演題もあってもいいのではないかなと思う。昨今は偏りが特にひどく、毎度同じような人が同じような話をしてばかりになっている。
※	ハイブリッド開催であることが、事前に分かりにくかった。
※	震災で学会から勝手に退会させられていたのには驚いた。
※	聴講者が多く立ち聞きするのが大変だった。オンデマンドで視聴可能なのは知っているが、せっかくオンサイト参加しているのでその場で聞きたいと思う。人気だと思われるセッションについては大きめの会場で行う等の配慮が必要だと感じた。
※	会場が離れているのは不便。荒天時など特に。開催時期は、12月より11月が良い。内部留保？お金は溜めない方がよい。溜めてはいけない。年会費、年会参加費を安く。
※	とにかく、Web上のプログラムが不便すぎて、スケジュール管理が非常に難しかった。例えば、ある演題の要旨を閲覧した後、戻るとページ目に戻ってしまう。ポスターの演題検索の際、2グループにしか分けられていないので、各テーマ毎に課題を検索するのに手間がかかる、等、年々、使い勝手が悪くなる気がする。冊子の郵送を止めるとかで経費を浮かせるなら、その分、Webプログラムの利便性を向上させて欲しい。切に、思います。
※	有名な「ハゲタカジャーナル」の企業ブースを見かけてとても驚いた。見間違いでなければ大きな問題だと感じる。分子生物学会としてのハゲタカジャーナルへのスタンスが疑われるのではないだろうか。ハゲタカジャーナルを認めているあるいは推奨しているようにすら感じてしまった。先日AIで架空の論文を作成して発表したジャーナルと同一だと思うので、学会としてどういったスタンスであるのかとても気になった。ハゲタカジャーナルが徐々にコミュニティに浸透して、いつの間にか学会にブースを設けている現状に強い危機感を感じた。
※	大変活気のある学会に参加させていただき、有意義でした。この活気ある学会を今後も継続していくことが大事だと感じました。大学院の学生さんにとっては、11-12月の開催は発表や参加がしやすく、この時期の開催は大変ありがたいです。Late-breaking Abstractが募集されるのもありがたいと思います。
※	ありがとうございました。
※	3日間の予定ではかなりタイトであると感じた。また、最終日や夕方以降のセッションは参加者が極端に少ないと感じた。日程日時の設定を見直してほしい。
※	国際会議場(口頭発表会場)に休憩スペース(イス)が少なかった。軽食、お土産、キッチンカーなどの周知が不足していた。全体としては活気のあるよい年会だった。
※	今回若手で公募シンポジウムに応募させていただき、ありがたく採用させていただきました。おかげさまでかなり盛り上がりました。分野も広めにとったからか、若手のフレッシュさと専門外の方向けの丁寧なプレゼンが話し手に良い緊張感をもたらし、聴衆の方にも新鮮味を感じてもらえたかと思えます。シニアの方のシンポジウムとはまた違った良さが出ました。今後も、若手の分野横断的なシンポジウム枠は積極的に採用していただければ幸いです。
※	学会のサイズが大きくなりすぎている。何らかの対処が必要であると思われる。
※	シンポジウムのオンデマンド配信を増やして頂きたいです。現地参加しても物理的にひとつしか聞けません。オンデマンド配信を希望しない演者の発表は削除すれば良いと思います。オンデマンド配信されないのは、コストの面からでしょうか？
※	今後ともよろしくお願い致します
※	私自身の業務エフォートの80%以上は管理と調整で研究活動は10%ていど(しかもベンチではなく公衆衛生データと政策研究)という外れ値の学会員ですが、分子生物学会の取り組みは大変参考になります。今回は2日間時間が取れたので、DOHaD、ラボ自動化、研究倫理、キャリアパス+オンラインでつまみ食いの的に参加しましたが、勉強になりました。これからも数年に1回程度しか参加しないと思いますが、引き続き自由に発言、討議できる学会であってほしいと思います。
※	会場までのアクセスについて。博多の交通インフラが弱く、朝バスは混んでいて乗れず、飛行機は1時間単位で遅れておりました。その影響で朝のセッションを逃してしまいました。以上、今後の開催地の選定にお役立ていただきたいです。
※	関連するシンポジウムが同時進行していると参加がむづかしくいつも残念に思っていたのですが、いくつかはオンライン併用だったため、柔軟に参加できました。一方、少数のシンポジウム会場だけが離れていて、行き来が大変でした。ポスター会場は多少離れていてもよいですが、口頭発表会場が近くにまとまっていると嬉しいです。全体としてはとても満足な会議でした。ありがとうございました。
※	子がいると遅くまでいるのは難しいので、会場にいなくても聴けるようハイブリッド開催を続けるべき。会期が短くて出張の負担が少ないのは大変助かった。キャリアセミナーは学生向けだけではなく子どもがいてステップアップに悩んでいる世代向けの企画が欲しい
※	初めて参加しました。ポスターの数が膨大で、説明を聞きたいと思っていたところを聞ききれなかったのが残念でした。3分割くらいにしてほしいです。シンポジウムは似たようなものが多かった印象であり参加しませんでした。日本語のセッションが多くとてもありがたく感じました。
※	19:30から始まるセッションがあるのが予定的に困る。その時間帯は大抵、発表者・オーガナイザー・招待講演者での懇親会が企画されるので参加が難しくなる。
※	海外招聘者の渡航費支援について、一人当たり15万円では欧米から招聘した場合は、全てを賄うのはかなり難しいと感じた。また仮に15万円以内に収まった場合、逆に一銭も支給されないことになってしまうため、何らかの形で改善してほしい。
※	ポスター会場にはもっとテーブルと椅子を増やして欲しい。
※	早期登録できなかった場合の参加費の上昇が大きいに思います。直前まで予定が立たない場合には参加をあきらめざるを得ないことがあります。

質問23. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	シンポジウムによっては予定よりもかなり時間超過しその後のプログラムにも差し障りある状態になっているものも散見されました。他の学会に比較して発表後のdiscussionが活発なせいなのかもしれませんが、たとえその後バッファー時間があっても予定された時間内に納めるような進行をしていただければと思います。
※	フォーラムは参加しなかったが、毎年開催の時間が遅すぎるように思う。たとえば、ポスター発表の時間と被せるなどの時間帯の変更が必要に感じる。福岡会場は、会場への交通手段が限られるため、今年のように天候が悪い場合には歩いて行くことも難しいため、特定の時間でバスの手配なども考慮した方が良いのではないだろうか？
※	プログラム集冊子(詳細版)がないことに大いに不便を感じた。当日配布と聞いていたが、演題タイトルがない日程表程度のもので役に立たない。演題タイトルは必須と思う。PadでConfitで検索できても、検索は自分が元々興味・関心のあるものしか検索できない。演題タイトルが並んだプログラム集冊子があれば、自分の興味・関心のある演題を探す過程で思わぬ異分野の発見があり、新しい発想を生む。それが巨大会に参加する醍醐味でもある。どんな素晴らしい企画をしても、一番の入り口であるプログラム集冊子(詳細版)がないとアクセスすることなく学会が終わってしまうこともある。その意味でも、プログラム集冊子(詳細版)は参加登録した人には事前に送って貰いたい。忙しいなかでも学会に行く途中の新幹線や飛行機などどんな環境でも手軽に目を通すことができる。周りの若い人たちからも、分子生物学会で臨床の医学会並に高い参加費を取って、プログラム集冊子(詳細版)を廃止するなど何にお金を使っているのだろうと言う声が多々あった。
※	マリンメッセA・Bにポスター会場がわかれており、天候の悪さもあいまって非常に不便を感じた。無駄なスペースも見受けられたので、もう少しコンパクトにできなかったかと思う。
※	博多だけはやめて欲しい。会場へのバスがあまりに少なく、乗れない。今後、今の会場であるなら、絶対、博多はやめて欲しい。地下鉄が使えるならOK。
※	・正会員13,000円参加費は高い。・公募シンポジウムの数が多すぎる
※	zoomウェビナー使用は、オンサイトで参加できない人のみならず、難聴で会場では聞き辛い等の場合にも助かるので、ぜひ続けてほしいです。
※	今大会は、ポスター発表の時間帯が適切に取られていて、これまでの大会より、十分な議論ができた様に感じました。
※	ポスター会場なり本会場に託児所ならぬキッズスペースを設けてはどうでしょうか？託児サービスは利用したことがありますが、子供が重篤な胃腸炎に罹って帰ってきました(なのでもう利用しません)。子供もポスターくらいなら見られますし、子供が退屈せずに親と一緒に休憩できる場所が欲しいです。
※	可能であれば、オンライン参加のみの場合の参加費を少し安くしてもらえると嬉しいですね。たくさん演題がプログラム内容しかわからないので。
※	最終日は16時か17時くらいに終わる方がありがたいです。多様性の観点からも、公募シンポジウムの採択数を減らすのはよくないかと思いますが、大会企画を減らすなどは難しいでしょうか。基礎系の学会なのにランチョンセミナーの数が多く、大変ありがたかったです。
※	キャリアパス委員会のランチタイムセミナーについて。企画を担当される委員会のご苦勞はお察ししますが、委員があれこれ言いたい放題で盛り上がるセミナーは、2回のうち一回だけでよいのでは。2回ともあのスタイルでは、ほとんど何も後に残らないように思います。私には、建設的なご意見を話された一部の委員の顔を名前だけが印象に残りました。もう一回は、研究倫理セミナーのスタイルに習って、20分ほどの基調講演を踏まえてパネリストで議論するスタイルにしてはどうでしょうか。すでにダイバーシティ関連問題について九州大学の取り組みが紹介されましたので、九州大学から制度設計を担当された方をお招きして、そのご苦勞や問題点、他研究機関に普及させる点での問題点などを議論するとかどうでしょうか。あるいは、研究室立ち上げ時に若手PIに対する体系だった研修を実行されている機関から実施担当者をお招きするとか、その研修を受けた若手PIご自身に話して頂くとか。できれば(海外の研究機関所属の方でもよいですが)日本語で話して頂く方が望ましいでしょうね。
※	分子生物学の枠を超えた企画が良い。システム生物大反省会は良かった。ただし、単なる合同開催ではつまらない発表ばかりが増える。テクニカルセミナーのような形で、異分野のトップ研究者を厳選して招待するのが良い。
※	日本生化学会と合併してください。似た学会が2つもあるのは無駄。
※	・研究費関連企画(「研究費の現状と課題」、「科学研究費助成/特別研究員事業の最近の動向」)・キャリアパス委員会のセミナーの取り組みを高く評価します。一方、キャリアパス委員会のセミナーに見られるように、「パネリストがいわゆる“成功者”ばかりで、研究費やポスト獲得に本当に苦勞している弱い立場の研究者の声をうまく拾えていないと感じます。研究費やポストを獲得できなかった場合の実例とその対処法についての取扱を希望いたします。
※	ポスター会場内の休憩用の机の数がちょうど良かったです。
※	年会HPへのアクセスが、会場のネット環境のせい何度々接続が途切れる事があり、ログインのやり直しや直前に閲覧していたページに戻るのが煩雑だった。特に、ポスターセッションのページが1ページ辺りの演題数が非常に多く、スクロールして確認するのが難しかったので、やはり専用アプリの存在が望ましい。
※	連日の雨には参りましたが、おかげさまで有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。